

働き方改革とダイバーシティ

障がい者、女性、高齢者が活躍する環境づくり

広島市・ニシキプリント株式会社

株式会社ニシキプリント（広島県広島市／宮崎 真社長）は“働き方改革”を通して新たな付加価値創出を目指している。その基盤にあるのが多様な人材の活用。同社では就労継続支援A型事業所の『サポートセンターあゆみ』、『サポートセンターめばえ』と連携しながら、一般企業への就職が困難な障がいを持つ人に働く機会を提供している。

同社は1967年に広島市西白島町で創業。地域に根差した印刷会社として成長し、現在は印刷を核に、広島県の特徴ある特産品や商品を紹介、販売する『安芸ん堂』を展開するなど、地域貢献を基軸に事業を拡げている。

創業者の故・宮崎忠氏は現代表の宮崎真氏の伯父に当たる。設立当初から障がい者の雇用を進め、健常者、障がい者を問わずにその“人”の能力で、適材適所に人材を配置しながら企業経営に携わっていたという。創業者の精神は今も受け継がれ、2013年には東広島工場内に一般社団法人東広島自立支援センター『就労継続支援A型事業所サポートセンターあゆみ』を設立し、障がいのある人に就労機会を提供し続けている。

宮崎社長は障がい者の雇用の場の提供を慈善活動に位置付けていない。「検品や封入などの作業で助かっています」

と、経営者として貴重な戦力としてきた。

2019年2月にスタートした『TEGO』は、印刷物の企画からWebサイト構築、発送までの業務を一括して請け負う新サービスである。同社が持つ経営資源を組み合わせ、顧客の面倒な業務を引き受け、人手不足による業務負担の増加や働き方改革を支える。『TEGO』とは広島弁の『てごう』で手伝うことを意味する。

同社は代理店としてゆうメールを扱うほか、発送条件に応じて各種発送手段を提案している。封入・封緘、検品業務は主に広島工場内の『サポートセンターあゆみ』に委託。企画や販促支援は主に『安芸ん堂』のチームが担う。制作・生産はニシキプリントのDTPや印刷・加工部門が担当する。

宮崎社長は「当社のゆうメールを利用すると発送費が一通当たり数円安く提供しています。その費用を封入・封緘に充てて頂ければ、お客様の業務負担の軽減と就労継続支援という社会貢献につながります」と述べている。

障がいを持つ人が職場でいきいきと働き、かつ間違いなく作業できるようにするには環境づくりがポイントになる。例えば、封入・封緘業務では、封入する印刷物と封筒の数を合わせ、二



宮崎 真 社長

重の封入や入れ忘れをチェック。その上で封筒の重さを量り、全ての重量が揃えば発送する。また、『安芸ん堂』で販売する商品の箱の製造工程では、印刷物と抜き機の刃型の見当を合わせやすくするため、台紙にガイドを付けた。

チャレンジを恐れず

新しく設置した『令和の働き方推進委員会』のメンバーはパート社員である。家事をこなす女性のパート社員が働きやすい職場づくりを目指して設置した。

「当初、会社の中からはパートは時間で働くから委員会で拘束される時間が負担になるという、すぐくもった意見も出ました。しかし、パートの社員が現場の課題や改善点を言う機会を作り、もっと活躍してもらいたいの、あえて設置しました」。パート社員は集まれる時間が少ないため、アンケートで答える形式を採用。建設的な意見が



見当を合わせる台紙のガイド



寄せられ、「すぐにできることと、考えてできることを仕分けして、色々な部門を交えて改善しています」という成果が見えた。

障がい者、健常者を含めた職場の改善と環境づくりは、同社の『働き方改革』を推し進めている。同社は広島県が制定している『広島県働き方改革実践企業認定制度』の認定を受けた。広島県独自の制度で、県内の企業221社が広島県働き方改革実践企業として認定されている。

同社では有給休暇の計画的な取得をはじめ、週休二日制度を導入して社員の休日を増やした。また、社員からの提案と話し合いの上で、試験的に土曜

ニシキプリントでは誰もが戦力として活躍

日出勤者、月曜日出勤者を分けて、会社自体の操業日数を増やし、生産能力の向上を目指している。加えて一人当たりの生産性向上のため、ニシキプリントの社員の業務を仕分けし、繰り返し作業などをパート社員や就労継続支援A型事業所に振り分け、付加価値の高い部分に集中して仕事をしやすくしている。

職場の環境改善と同時に意識しているのは、印刷を核とした周辺業務の取り込み。社員に資格を取得させて新しい付加価値を作りだそうとしている。直接、印刷に関わらなくても、資格を通じて得た知識やノウハウで顧客に貢

献ができれば、仕事に結び付くと考えている。すでにDTP検定や自費出版アドバイザーなどを取得した社員が活躍。新しいビジネスが芽生えつつある。

「ニーズと合致した仕事を目指さないと生き残っていきません。印刷だけに固執しないことだと思います。また、チャレンジすることを恐れて、何もせずに自社の領域を守っているだけでは衰退していきます。たくさんの失敗はありますが、チャレンジするから分かることもあります」。宮崎社長は障がい者、女性、高齢者が活躍できる場をつくりながら、働き方改革と新しい付加価値創出を目指す。

吉澤美保主任が自費出版アドバイザー試験に合格

ニシキプリントの生産管理課に所属する吉澤美保主任は、昨年、NPO法人日本自費出版ネットワークの『自費出版アドバイザー』の資格を取得した。

吉澤主任は会社全体の生産状況を見ながら的確に現場に指示を出し、スムーズに仕事が流れるようにする重要な役割を担っている。営業職でもなく、DTP制作の経験もないが、営業担当者が出払っている昼間、同社を訪れる顧客に対応している。

「内勤で仕事をしているので、お客様

と話す機会は少ないですね。慣れていないので、自費出版アドバイザーの資格は正直、難しいと考えていました」と述べるが、その横で宮崎社長は「そうはいっても接客は上手なですよ」とフォローする。

日中、同社を訪問する顧客のほとんどは印刷発注の知識を持たない。吉澤主任はPTAの会報や自費出版の制作に悩み、飛び込みで相談しに訪れる人たちの要望を聞き、かみ砕いて入稿方法や印刷について説明する。

資格試験に当たっては、認定自費出版アドバイザー養成研修会を受講。過去問で正答率の低い問題の解説を聞き、ほぼ予想通りの設問が出題された。「こういうお客様がこられて、こういう原稿をもってきたら、どうアドバイスするか何項目か挙げよ、というような問題が出ます。明確な答えがないので難しかったですね」という難問もクリアし、1回目の受講で合格した。

今後、吉澤主任は自費出版をはじめ、印刷の制作に悩む一般の人たちに、さらに的確にアドバイスし、信頼と安心を提供していくに違いない。